

Virga Jesseの逐語訳

聖路加国際病院礼拝堂聖歌隊 川津泰人 平成17年9月

Virga Jesse floruit(エッサイの若枝が花開いた)Anton Bruckner作曲:イザヤ書11章1-2

本解説書は、Virga Jesseと一緒に歌う合唱仲間の為にまとめた物で、従来の意識中心の解説からよりわかりやすく言葉を中心とした逐語訳に重点を置いたものです。意識は左の原文に会うように並び替えてあります。訳については聖路加国際病院礼拝堂聖歌隊HP <http://homepage2.nifty.com/ekkun/virga.html> を参考させていただきました。感謝いたします

従って、かなりの部分を辞書を参考に活用形の前の原語を表した。間違いあればご指摘していただければ幸いです。ラテン語読み方については、主なものとして、古典式、イタリア教会式、純イタリア式、ドイツ式があるがここでは、現在のイタリア語標準語である純イタリア式を採用した。(他に仏式、スペイン式などあり) Tiの発音:①tiプラス母音の場合は、ツィtsの発音、pontio", etiam, tertia, consubstantialem, resurrectionem, deprecationem, orationem, auditionem, gratiasなどはツイと発音、②tiプラス子音: tibi, timebitなどはティと発音する。教会式は1903年教皇ピウス十世がMotu Proprioとしてカトリック全体に推薦したもので純イタリア式と最も異なるのはMihi, Nihilの発音、教会式はミキ、ニキル(古典式と同じ)、純イタリア式はミーイ、ニールとなる点、ドイツ式は注ご参照

下記の参考資料(辞書類は主に白井図書館所蔵書を利用)も大いに役立ちました。また、ミサ曲、ラテン語・教会音楽ハンドブックの著者三ヶ尻さまに貴重なアドバイスも頂きました(三ヶ尻様のUR <http://www.geocities.co.jp/MusicHall/4061/>)。まだまだ不十分な面もあり、今後とも改善しようと思っておりますので、何かアドバイス頂ければ幸いです(メールアドレスmondmusicale2006-hp@yahoo.co.jpへ、ダウンロードのURIは <http://www.geocities.jp/pacificostluke/sub4Cantico.html> ご参照)。

参考資料:ブルックナー・マーラー事典(東京書籍)、ブルックナー(春秋社)、ブルックナー(作曲家別名曲解説ライブラリー・音楽乃友社)、ミサ曲、ラテン語・教会音楽ハンドブック(三ヶ尻正シヨパン)、音楽大辞典第5巻(平凡社)、クラシック音楽事典(平凡社)、ラルース世界音楽作品事典(福武書店)、岩波きリスト教辞典、旧約聖書イザヤ書(旧約聖書翻訳委員会訳 岩波書店)、聖書百科全書(三省堂)、聖書思想事典(三省堂)、聖書人名事典(教文館)、新約聖書人名事典(東洋書林)、羅和辞典(研究社)、羅和字典(南雲堂フェニックス)、和羅小事典(国際語学社)、新ラテン文

Virga

Virga Jesse	Feierlich Langsam 荘重にゆっくりと				
	Virga	Jesse	floruit		
	若枝、むち、ほうき	エッサイ(ダビデ注ご参照)	花が開く		
	Virgo	Deum	et	hominem	genuit;
	処女、若い女	神	そして	人	生む、産む、生じ
	pacem	Deus	reddidit,		
	平和	神	回復する		
	in	se	reconcilians	ima	summis.
のなかに、で	お互いに	和解させる、回復する	最も低い、最後の	最も高い	
Alleluja					
ハレルヤ(ヘブライ語)					
標準的意訳	口語訳 エッサイの若枝が花開いた。 乙女が神にして人である方を産んだ。 神は平和を回復して下さった。 そして最も低い者を最も高い者と和解させて下さった。アレルヤ。				

ブルックナー作曲<モテット>より「エッサイの若枝が花開いたし」

Virga Jesse of Motteten by Anton Bruckner (1824-1896)

モテットのなかでは、Inveni David, Locus iste, Os justi, Ave Maria, Christus factus est, Tota pulchra es, Vexilla regisなどと並んでよく演奏される曲のひとつです。

<参考情報>

Anton Bruckner(1824~1896)作曲:アントン ブルックナー、

オーストリアの作曲家。交響曲とミサ曲の大家。徹底的にカトリック信仰に生きた音楽家として知られています。19世紀後半最大の教会音楽家である彼は、交響曲の精神的要素や技術的要素を、宗教的な詩に対する敬虔で典礼的な扱い方と結びつけました。

このVirga Jesseは、リンツ大司教区の百年祭に際して、1885年9月3日、聖フローリアン(St. Florian)での聖歌隊指揮者Ignaz Traumihlerに献呈された曲である。作品が難解の為此の機会には演奏されず、1885年12月8日にウィーンの宮廷礼拝堂でヘ長調ミサへの挿入曲として、ブルックナー自身の指揮で初演されました。この曲は次々と転調を重ねて豊かな色彩を生み出して、歌われることに特徴があります。歌詞は復活節の聖母マリアを讃えるミサの昇階唱(グラデュアーレ)として、イザヤ書の故事によったものである(下記注ご参照)

	第三句Pacem DeumからはPPで始まり、神の平和が静かに表現、終局のアレルヤではテノールが主導し、バスの保持低音に支えられて曲の最後の盛り上がりとなる。
Jesse(エッサイ)	ダビデの父、ダビデと直接言わないのはダビデ王朝への批判という説、又、ダビデを直接呼ばず、父の名で呼ぶ語法という解釈がある
ミサとは	もともとは解散という意味—Ite, missa estここで会が終わるので解散 キリストと弟子たちの最後の晩餐を象徴的に再現する キリスト教会の最も重要な典礼、 その基本は、キリストの体と血になぞらえパンとぶどう酒を捧げ、 神に感謝し、次いでパンを裂き、信者に分かち与えることからなる。 楽曲としては、 Offertorium (奉唱歌)、Sanctus、Agnus Dei、Communio (聖体拝領唱)が 上記の項にそれぞれ対応する
油	穀物、ぶどう酒と並んで神の祝福の徴(しるし)と考えられ、 これを欠くことは不忠実に対する神罰、 これが豊かに恵まれることは救いを意味する。 聖なる油の注油は信仰者に聖霊の多種多様な恵みを伝える。 聖書では、神の祝福、聖別の象徴であり、祭司、王、預言者の努めを授ける際に油が注がれた。
聖別	ある人や、物、場所や時を神に捧げること、又は捧げる者/物を、 他の者/物と区別すること.. 最も重要な聖別はキリストの定めた言葉(聖別句)を唱えることによって パンとぶどう酒がキリストの体と血になるという出来事
旧約	イエスの死と復活に神と人間との関係の刷新と考えそれを新しい契約—新約、イエス以前の契約を旧約と呼ぶ、その中で特に重要なものはモーゼ を仲介にシナイ山で締結された十戒を中心としたシナイ契約 他に、ノア契約、アブラハム契約、ダビデ契約などがある
Vetus testamentu	
DAVID	イスラエル・ユダ複合民族の王。 在位は紀元前997～966年頃。 預言者サムエルによって香油を注がれた (主に選ばれた証し)羊飼いいエッサイの子ダビデは、 悪霊に憑かれて苦しんでいたイスラエルの王サウルに仕え、 得意の竖琴で王を慰めていました。 サウル王亡き後、王位についたダビデは、 イスラエル12部族を統合してイスラエル・ユダ複合民族王国として 統一国家を築きあげました。
モテット	モテットとは (motet[英・仏]、motetus[羅]、motetto[伊]、Motette[独]) mot(語)というフランス語に由来するモテットは、 13世紀から近代にかけて行われたところの、 主として教会的な比較的短い声楽系楽曲である。 一般には、16世紀頃盛んであった詩篇などの聖書の言葉を歌詞とする 無伴奏多声的合唱曲をさしているが モテットの時代的変遷は相当に著しいものであるため、 これを一律に定義つけてしまうのは困難である。 (「合唱事典」より)
G.P.	音楽用語Generalpause(独)の略。総休止。全演奏者の休止で、全てのパートが休符になること。作曲技法的には大変な緊張感を出すことが出来、運命の冒頭、ブルックナーの作品に用いられているのが有名。
ドイツ式ラテン語読み(主要なもの)	c(e,i)の前でツィ、pacemパーツェム)、sc(a,o,u)の前でkse,lの前でstsu—suscipe,ススツイペ)、gn/gl(そのまま発音agnusアグヌス)、gu+母音=qu+母音(gv—sanguine—サングヴィネ、kv—quiクヴィ)、hlはよむ、e(ドイツ式に発音meserere—ミゼレイレ、laudamus te—ティー)など他にもあるので詳しくは三ヶ尻著ミサ曲ラテン語教会音楽ハンドブック(シヨパン)ご参照
英文訳—ご参考	I have found David my servant, with my holy oil have I anointed him. * My hand shall hold him fast.V. The enemy shall not be able to do him violence ; the son of wickedness shall not hurt him.R. My hand shall hold him fast
イザヤ書11章1から2節の故事	エッサイの根からでる芽—エッサイの根株より一つの若芽が生え、彼の根から一つの若枝が出て実を結ぶ。その上にヤハウエの霊が留まる。これは知恵と認識の霊、思慮と勇気の霊、ヤハウエを知って恐れる霊である。